

翻
校
編
輯

日本畧史

上

205

K110.2

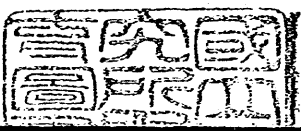
40

師範學校編輯

日本畧史

明治年刊 文部省刊行

刺 補



凡例

小學生徒ハ受業ノ時間ニ定期アルヲ以テ授ク
 書皆簡略ヲ主トス故ニ此編ニハ神代及
 御諱山陵等ヲ省キテ文中ニ御奉給等ノ文字ヲ
 缺ク其ノ紙張ヲ減センコトヲ欲スレハナリ
 飯豐天皇ヲ歴代ニ列セサルハ古事記及日本紀
 ニ據ル
 長慶天皇ハ新葉集ノ序ニ據リテ亦歴代ニ列セ
 ス

日本略史

凡例

文部省

遣唐使遣新羅使ノ類ハ事故アルニ非レハコレ
ヲ省ク諸臣ノ官位及其ノ姓ヲ記サ、ルモ亦簡
略ヲ主トスレハナリ

日本略史上卷

木村正辭 編

那珂通高 訂

第一代神武天皇ハ、天照大神五世ノ孫ニシテ、鷦鷯草葺不合尊ノ子ナリ、

天祖天照大神ノ子ヲ、天忍穗耳尊ト稱ス、天忍穗耳尊、彥火瓊々杵尊ヲ生ム、天祖高天原ニ在リテ、武甕槌、經津主ノ二神ニ命シ、葦原中國ヲ、日本國ノ平定セシメ、皇孫彥火瓊々杵尊ニ賜フニ、三種ノ神器ヲ以テシ、其ノ國ニ降ラシメ

テ、主トス、彦火瓊々杵尊、日向國ニ居リ、彦火々
出見尊ヲ生ム、彦火々出見尊ノ子ハ、卽、鸕鷀草
葺不合尊ナリ

天皇生ナガラニシテ、明達ナリ、年十五ノ時ニ、立
チテ太子トナリ、後倭、檀原宮ニ治ス、○初天皇日
向ニ在リテ、諸兄及皇子等ニ告ゲテ曰ク、昔天神
此豐葦原瑞穗國日本國ノ古名ナリヲ、我が天祖ニ授ケシ
ヨリ、降リテ、西偏ニ居ルコト、多ク年所ヲ歷タリ、
獨奈何セン、遼邈ノ地、未、玉澤ニ露ハズ、邑ニ君ア
リ、村ニ長アリ、以テ相陵轍スルヲ、吾將ニ東征シ

テ都ヲ中州ニ定メ、以テ天業ヲ恢ニセンコトヲ
欲スト、乃、親^ラ皇族ヲ帥^テ并テ、舟師東ヲ指シ、筑紫、安
藝、吉備等ノ國ヲ經テ、難波ヨリ、河内ニ到リ、倭ニ
入ラントス、長髓彦ト云フ者アリ、衆ヲ悉シテ、コ
レヲ拒ク、皇軍利アラズ、因リテ、轉ジテ、路ヲ紀伊
ニ取リ、丹敷戸畔ヲ荒坂津ニ誅シ、頭八咫鳥ヲ以
テ、鄉導トシ、菟田下縣ニ至リ、兄猾ヲ誅シ、又、兄磯
城等ヲ斬リ、遂ニ長髓彦ヲ征ス、是ヨリ、先饒速日
命、天ヨリ降リテ、倭ニ居ル、長髓彦コレヲ奉シテ
主トシ、皇軍ニ抗ス、是ニ於テ、饒速日命、長髓彦ヲ



神武天皇東征圖

殺シテ降り中州悉平ク、
 天皇乃宮ヲ倭畝火檀原
 ニ經營シテ帝位ニ即久
 寔ニ辛酉ノ年ナリ明治
 五年十一月詔シテ太陰
 曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用キ
 此ノ歲ヲ以テ紀元トス
 卽今明治七年ヲ距ルコ
 ト二千五百三十四年ナ
 リ○天皇在位七十六年

ニシテ崩ズ年百二十七

第二代綏靖天皇ハ神武天皇ノ子ナリ天皇ノ庶
 兄手研耳命陰ニ不軌ヲ圖ル天皇コレヲ覺リテ
 同母兄神八井耳命ト謀ルコレヲ誅ス○葛城ニ
 都スコレヲ高岡宮トイフ在位三十三年ニシテ
 崩ズ年八十四

第三代安寧天皇ハ綏靖天皇ノ子ナリ都ヲ片鹽
 ニ遷スコレヲ浮穴宮トイフ在位三十八年ニシ
 テ崩ズ年五十七

第四代懿德天皇ハ安寧天皇ノ子ナリ都ヲ輕ニ

遷ス、コレヲ、曲峽宮トイフ、在位三十四年ニシテ
崩ズ年七十七

第五代、孝昭天皇ハ、懿德天皇ノ子ナリ、都ヲ掖上
ニ遷ス、コレヲ、池心宮トイフ、在位八十三年ニシ
テ崩ズ年百十四

第六代、孝安天皇ハ、孝昭天皇ノ子ナリ、都ヲ室ニ
遷ス、コレヲ、秋津島宮トイフ、在位百二年ニシテ
崩ズ年百三十七

第七代、孝靈天皇ハ、孝安天皇ノ子ナリ、都ヲ黒田
ニ遷ス、コレヲ、廬戸宮トイフ、在位七十六年ニシ

テ崩ス、年百二十八

第八代、孝元天皇ハ、孝靈天皇ノ子ナリ、都ヲ輕ニ
遷ス、コレヲ、境原宮トイフ、在位五十七年ニシテ
崩ズ年百十六

第九代、開化天皇ハ、孝元天皇ノ子ナリ、都ヲ春日
ニ遷ス、コレヲ、率川宮トイフ、在位六十年ニシテ
崩ズ年百十五

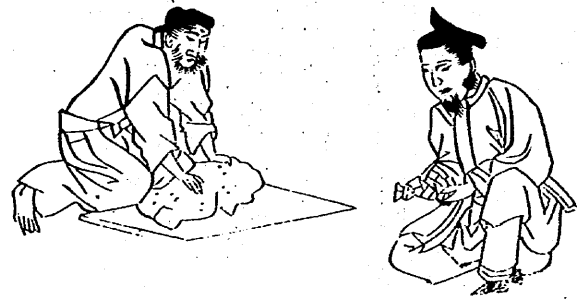
第十代、崇神天皇ハ、開化天皇ノ子ナリ、都ヲ磯城
ニ遷ス、コレヲ、瑞籬宮トイフ、天皇神祇ヲ尊崇シ
皇女豐銀入姬命ヲシテ、天照大神ヲ、倭ノ笠縫邑

ニ、祀ラシム、初大神寶鏡ヲ皇孫ニ賜ヒテコレヲ
殿内ニ奉ゼシム。是ニ至リテ其ノ威ヲ瀆サンコ
トヲ畏ル、故ニコレヲ遷シテ別ニ鏡劍ヲ模造セ
レメ御座ニ置ク。又天社國社ヲ定ム、○將軍ヌ北
陸東海吉備丹波ノ四道ニ遣ハス會武植安彦反
ス、討ナテコレヲ平ク。○始メテ人民ヲ拔シテ以
テ調役ヲ課ス、又諸國ニ令レテ船舶ヲ造ラレム、
任那國姫ノテ來貢ス、○天皇深ク心ヲ民事ニ用
井天下大ニ治ル、民稱シテ御肇國天皇トイフ、在
位六十八年ニシテ崩ズ、年百十九、

第十一代垂仁天皇ハ崇神天皇ノ子ナリ、都ヲ纏
向ニ遷ス、コレヲ珠城宮トイフ、○皇后狹穗姫ノ
兄、狹穗彦不軌ヲ圖リ、皇后ヲ誘ヒ逆ヲ行ハシメ
ントス、皇后實ヲ天皇ニ告グ、天皇ハ綱田ニ命ジ
テコレヲ討タシム、狹穗彦拒守ス、皇后兄ヲ救ハ
シコトヲ欲シ、皇子譽津別尊ヲ抱キテ城中ニ投
ズ、八綱田火ヲ縱チテ城ヲ焚ク、皇后乃、皇子ヲ出
ダシテ、兄ト共ニ城中ニ死ス、○新羅國ノ王子、天
日槍來リテ、鏡王、刀、鉾等ヲ獻ズ、○皇女倭姫命ヲ
シテ、豐鍬入姫命ニ代ヘテ、天照大神ヲ祀ラシム、

倭姫命、神教ニ隨ヒテ、祠
 ヲ伊勢ノ度會ニ遷ス。○
 詔シテ、殉死ヲ禁ズ、野見
 宿禰、上偶ヲ造リテ、殉ニ
 代ヘムコトヲ請ス、天皇
 コレヲ嘉シテ、立テ、永
 制トシ、土師、臣ノ姓ヲ賜
 フ、野見、宿禰、嘗テ倭ノ當
 麻躑速ト、カヲ角ベテ、コ
 ヲニ克ツ、是、朝廷相撲ノ

野見宿禰土師ヲシテ
 土偶ヲ作ラシムル圖



儀ノ權輿ナリ。○天皇、在位、九十一年ニシテ崩ス、
 年百三十九

第十二代、景行天皇ハ、垂仁天皇ノ子ナリ、纏向ニ
 都ス、コレヲ日代宮トイフ。○筑紫ノ熊襲反ス、天
 皇親征シテ、コレヲ平ダ、既ニシテ熊襲再反ス、皇
 子、日本武尊ヲシテ、コレヲ討タシム、皇子、時ニ年
 十六、女装、シテ賊巢ニ入り、其ノ首ヲ刺ス、餘衆咸
 服ス、又皇子ヲシテ、東夷ヲ征セシム、皇子、乃、伊勢
 ニ到リテ、神宮ヲ拜ス、倭姫命、授ルニ、叢雲劍、及燧
 袋ヲ以テス、皇子、駿河國ニ到ル、虜伴リ降リテ、皇

子ヲ誘ヒ、燔鐵モシメ火ヲ放チ其ノ野ヲ焚久皇
子、燧ヲ以テ火ヲ出ダシ、コレヲ逆ヘ燒キ、劍ヲ挺
キテ草ヲ薙ギ、頼リテ以テ免ル、コトヲ得タリ、
是ヨリ叢雲劍ヲ改メテ草薙劍トイフ、今猶熱田
ノ神宮ニ祀ル者、是ナリ皇子、遂ニ進ミテ、相摸ヨ
リ上總ニ航セントス、海上暴風ニ遇テ、妃橘媛神
ニ祈リテ、海ニ投ス、暴風即止ム、船岸ニ達スルコ
トヲ得タリ、皇子進ミテ、蝦夷ノ境ニ到ル、賊皆風
ヲ望ミテ降り、邊境悉ク平ク、皇子還リテ、碓日嶺ニ
登リ、東南ヲ顧ミ、橘媛ヲ追慕シ、歎シテ曰ク、吾孀

者耶ト、山東ノ諸國、コレニ因リテ、今猶吾孀國今
國ニト稱ス、皇子、伊吹山ニ至リ、山神ノ毒氣ニ中
作ル作ルト稱ス、皇子、伊勢ノ神宮ニ獻シ、吉備武彦
リテ病ム、乃夷倅ヲ、伊勢ノ神宮ニ獻シ、吉備武彦
ヲシテ、京ニ復命セシメ、遂ニ、伊勢ノ能褒野ニ薨
ズ、時ニ年三十、天皇、大ニ悼惜シ、其ノ功ヲ録シテ、
武部ヲ定ム、○天皇、近江國ニ幸シテ、志賀ニ居ル
コト三年、コレヲ高穴穗宮トイフ、在位、六十年ニ
シテ崩ズ、年百四十三
第十三代、成務天皇ハ、景行天皇ノ子ナリ、高穴穗
宮ニ即位ス、武内ヲ大臣トス、大臣ヲ置クコト、此

ニ始マル、國郡ニ造長ヲ立テ、縣邑ニ稻置ヲ置キ、
山河ヲ界ヒテ、國縣ヲ分ツ、在位、六十年ニシテ崩
ス、享年未詳
ナラズ、

第十四代、仲哀天皇ハ、景行天皇ノ孫ニシテ、日本
武尊ノ第二子ナリ、大伴武以ヲ、大連トス、大連ヲ
置クコト、此ニ始マル、天皇、皇后ト、越前メ角鹿ニ
幸ス、既ニシテ、皇后ヲ留メテ、紀伊ニ巡狩ス、會熊
襲反ス、天皇親征シテ、長門ニ至リ、宮室ヲ造リテ、
コレニ居ル、コレヲ、豐浦宮トイフ、皇后モ亦至ル、
與ニ進ミテ、菟紫ニ幸シ、香椎宮ニ居リ、群臣ヲ會

シテ議ス、時ニ神ノリ、皇后ニ憑リテ曰ク、熊襲ノ
如キハ、師旅ヲ勞スルニ足ラズ、西方ニ寶國アリ、
新羅トイフ、モン能ク我ヲ祭ラバ、其ノ國必服シ
テ、熊襲モ亦自從ハント、天皇信ゼズ、數月ヲ歷テ、
香椎宮ニ崩ズ、在位九年、享年未詳
ナラズ、
第十五代、神功皇后ハ、仲哀天皇ノ后、開化天皇ノ
五世ノ孫ニシテ、氣長宿禰王ノ女ナリ、磐余ニ都
ス、コレヲ、若櫻宮トイフ、○皇后、仲哀天皇ハ、崩ズ
ルニ及ビテ、大臣武内ト謀リ、秘シテ喪ヲ發セズ、
神教ヲ奉シテ、西征セントス、會身メルコト有リ



テ、産月ニ當ル、乃石ヲ腰ニ捕ミ、祝シテ曰ク、願クハ、事竟ヘテ還ラム日ニ、茲土ニ挽セシメヨト、遂ニ新羅ヲ征ス、新羅王出デ、降リ、金銀、絹帛ヲ、船八十艘ニ載セテ獻ズ、コノヲ調貢ノ定額トス、是ニ於テ、高麗百濟ノ二國王モ、亦降ルコトヲ三韓

トイフ、今ノ朝鮮國是ナリ、皇后因リテ官家ヲ置キ、還リテ筑紫ニ到リ、皇子ヲ産ム、是應神天皇ナリ、皇后朝ニ臨ミ、政ヲ攝スルコト、六十九年ニシテ崩ス、年一百、

第十六代應神天皇ハ、仲哀天皇ノ子ナリ、輕島ニ都ス、コレヲ豐明宮トイフ、皇太后ノ攝政三年ニ立チテ太子トナリ、此ニ至リテ即位ス、時ニ年七十一〇、百濟王其ノ國ノ博士王仁ヲシテ、冶工卓素、吳服、西素等ヲ率井テ入朝セシメ、論語、及千字文ヲ獻ス、皇子菟道稚郎子、王仁ヲ師トシテ學ノ、

高麗ノ使者來リテ表ヲ上ル一及ヒテ推郎子其
文ヲ以テ倭嫚ナリトシ奏シテ使者ヲ責メ表ヲ
壞ル○推郎子ヲ立テ皇太子トス○天皇在位
四十一年ニシテ崩ス年百十一

第十七代仁德天皇ハ應神天皇ノ子ニシテ皇太
子ノ兄ナリ應神天皇崩スルニ及ヒテ皇太子位
ヲ天皇ニ讓ル天皇聽カス位ヲ空レクスルコト
三年皇太子天皇ノ志奪フヘカテサルヲ知リテ
自殺ス是ニ於テ天皇遂ニ即位シ都ヲ攝津ノ難
波ニ遷スコレヲ高津宮トイフ一日天皇人烟ノ

稀少ナルヲ見テ民ノ貧シキヲ知リ相抱テ除ク
コト三年百姓大ニ富ム○難波堀江ヲ鑿リ池溝
ヲ通シ堤防ノ繁ク民皆其ノ利ニ賴ル○蝦夷反
ス將軍田道ヲ遣ハレテコレヲ征セシム○天皇
在位八十七年ニシテ崩ス享年未詳

第十八代履仲天皇ハ仁德天皇ノ長子ナリ磐余
若櫻宮ニ治ス住吉仲皇子反ス瑞齒別皇子反正
コレヲ誅スニ皇子共ニ天皇ノ弟ナリ○天皇詔
シテ史ヲ諸國ニ置キ言事ヲ記シ四方ノ志ヲ達
セシム始メテ職職ヲ置ク因リテ職部ノ定ム在

位、六年ニレテ崩ス、享年未詳

第十九代反正天皇ハ、履中天皇ノ同母弟ナリ、都

ヲ河内ノ丹比ニ遷ス、コレヲ柴籬宮トイフ、在位

六年ニレテ崩ス、享年未詳

第二十代允恭天皇ハ、反正天皇ノ同母弟ナリ、都

ヲ遠飛鳥宮ニ遷ス、反正天皇崩レテ嗣無シ、群臣

迎ヘテ、天皇ヲ立ツ、天皇辭シテ許サス、群臣固ク

請フ、遂ニ即位ス、○天皇詔シテ、百官諸臣ヲ會シ

姓氏ノ詐冒ヲ正ス、在位四十二年ニレテ崩ス、享年未詳

第二十一代安康天皇ハ允恭天皇ノ子ナリ、允恭

天皇、木梨輕皇子ヲ立テ、太子トス、太子淫虐ナ

ルヲ以テ、群臣望テ天皇ニ歸ス、太子兵ヲ集メテ、

將ニ天皇ヲ襲ハントス、天皇群臣トコレヲ攻メ、

太子自殺ス、因リテ即位シ、都ヲ石上ニ遷ス、コレ

ヲ穴穗宮トイフ、○天皇母弟、大泊瀨皇子雄略天皇ノ

為ニ、大草香皇子ノ妹、幡梭皇女ヲ聘セントス、使

者諍リテ、大草香皇子、詔ヲ奉ゼズト奏ス、天皇怒

リテ、皇子ヲ殺シ、其ノ妃、中蒂姬ヲ取リテ、皇后ト

ス、○初皇后、大草香皇子ノ家ニ在リテ、眉輪王ヲ

生メリ、後天皇山宮ニ幸シテ、皇后ト宴シ、醉テ寢
ヌ、王、天皇ヲ弑シテ、大臣葛城圓ノ家ニ匿ル、時ニ
年七歳ナリ、天皇在位三年、年五十六、
第二十二代雄略天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、天皇
峻刻ニシテ、仇健人ニ過キタリ、安康天皇ノ弑セ
ラル、ニ方リテ、天皇諸兄ヲ疑ヒ、兵ヲ率キテ、八
鈞、白彥皇子ニ迫リ、遂ニコレヲ斬リ、圓ノ弟ヲ圍
ミ、火ヲ縱テ、圓及眉輪王ト坂合、黑彥皇子トヲ
焚殺ス、又市邊、押磐皇子及御馬皇子ヲ殺シ、遂ニ
泊瀨朝倉宮ニ即位ス、○天皇嘗テ葛城山ニ獵ス、

野猪突キ至ル、舍人ニ命シテ、刺レ殺サレメント
ス、舍人怖レテコレヲ避ク、天皇怒リテ、舍人ヲ弑
セントス、皇后幡媛皇女、諫ノテ曰ク、獸ノ故ヲ以
テ、人ヲ殺サバ、豈射狼ニ異ナランヤト、天皇欣然
トシテ曰ク、人ハ禽獸ヲ獲、朕ハ善言ヲ獲タリト、
乃舍人ヲ釋ス、○天皇、皇后ニ勅シテ、親桑ヲ採ラ
シメテ、以テ蠶事ヲ勸ムル、吳人來聘シテ、工女漢
織、吳織、衣縫、兄媛、弟媛ヲ貢ス、○豐受、大神ヲ、丹波
ヨリ伊勢ノ山田ニ遷シ、祀ル、天皇在位二十三年
ニシテ崩ズ、年六十二、

第二十三代清寧天皇ハ、雄略天皇ノ子ナリ、磐余、
 甕栗宮ニ治ス、皇弟星川皇子反ス、討テテコレヲ
 平フ、天皇嗣無キヲ憂フルコト久シ、市邊押磐皇
 子ノ遺子、億計弘計ニ王、播磨國ニ在リト聞キ、迎
 ハテ、億計王ヲ立テ、皇太子トス、○天皇在位五
 年ニシテ崩ズ、年四十一、
 第二十四代、顯宗天皇ハ、即弘計王ナリ、清寧天皇
 崩シテ後、皇太子位ヲ天皇ニ讓ル、天皇固辭ス、是
 ニ於テ、姑飯豐青皇女、政ヲ角刺宮ニ聽ク、九月ニ
 シテ皇女崩ズ、皇太子及大臣平群、眞鳥等、固ク請

ス、因リテ近飛鳥ハ、鈎宮
 ニ即位ス、皇太子ハ仍故
 ノ如シ、○天皇父ノ害セ
 ラレシ時、尚幼ニシテ、其
 ノ墓ノアル所ヲ知ラズ、
 因リテ父老ヲ聚メ、親臨
 シテ歷問シ、遂ニコレヲ
 近江ノ來田、綿、蚊屋野ニ
 得テ、改葬ス、○天皇父シ
 ク民間ニ在リテ、百姓ノ

億計弘計ニ王起舞ノ圖



日本書紀 上卷 文部省

疾苦ヲ知ル、故ニ賦歛ヲ薄クシ、貧窮ヲ恤ム、又此年豐熟シテ、穀一斛ノ直銀錢一文ナルニ至ル、在位、三年ニシテ崩ズ、年三十八、

第二十五代仁賢天皇、即億計王ナリ、石上、廣高宮ニ即位ス、天皇仁惠謙恕、吏ハ其ノ職ニ稱ヒ、民ハ其ノ業ヲ安クシ、戸口蕃殖ス、初、顯宗天皇位ニ即キテ、雄略天皇ノ陵ヲ發キ、父ノ仇ヲ報セントス、天皇、コレヲ諫メテ止ム、在位十一年ニシテ崩ズ、年五十、

第二十六代武烈天皇ハ、仁賢天皇ノ子ナリ、仁賢

天皇崩ズルニ及ビテ、大臣平群、真鳥、潘ニ篡奪ヲ謀リ、其ノ子鮪又天皇ニ禮ナシ、是ニ於テ、大伴金村ト謀リテ、父子ヲ誅シ、泊瀨列城宮ニ即位ス、○天皇、刑律ヲ好シ、法令嚴明ナリ、諸ノ酷刑親臨、ザルハ無シ、民皆震怖ス、在位八年ニシテ崩ス、年、享未詳ナラス

第二十七代繼體天皇ハ、應神天皇ノ五世ノ孫ナリ、父ヲ彦主人王トイフ、○天皇幼ニシテ孤ナリ、母ニ從ヒテ、越前ノ高向ニ居リ、長スルニ及ビテ、大度アリ、士ヲ愛シ、賢ヲ禮ス、武烈天皇崩シテ嗣

無レ群臣議シテ天皇ヲ迎フ、天皇遂ニ河内ノ樟葉宮ニ即位ス、後又都ヲ磐余ニ遷ス、コレヲ王穗宮トイフ、近江、毛野ヲシテ、新羅ヲ代ナテ、任那ノ故地ヲ復セシム、筑紫國造磐井、反レテ謀ニ新羅ニ通ス、物部麤鹿火ヲシテ討ナテコレヲ平ケレム、○大皇在位、二十五年ニシテ崩ズ、年八十二、第二十八代、安閑天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ、都ヲ勾金橋宮ニ遷ス、在位二年ニシテ崩ズ、年七十、第二十九代、宣化天皇ハ、安閑天皇ノ同母弟ナリ、安閑天皇崩シテ嗣無レ、群臣ノ請ニ因リテ即位

シ、都ヲ檜隈ニ遷ス、コレヲ廬入野宮トイフ、○詔レテ、筑前ノ屯倉ヲ修シ、以テ凶荒ニ備ヘシメ、在位四年ニシテ崩ズ、年七十三、第三十代、欽明天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ、宣化天皇崩シテ嗣無レ、群臣議シテ、天皇ヲ迎フ、因リテ即位ス、都ヲ磯城島ニ遷ス、コレヲ金刺宮トイフ、○百濟ヨリ、佛像及經論ヲ獻ズ、天皇コレヲ蘇我、稻目ニ賜フ、會、諸國大ニ疫アリ、物部尾輿等謂ヘニク、蕃神ヲ禮スルノ致ス所ナリト、因リテ奏シテ、佛像ヲ難波、堀江ニ投ズ、○新羅、任那ヲ滅シ、我

官府ヲ毀シ、紀男麻呂河邊、瓊年ヲシテ、コレヲ討タレム、瓊正、輕進シテ利ヲ失ク、擒ニセラル、調伊企難コレニ死ス、○大伴狹手彦高麗ヲ討ナテ、コレヲ破リ、其ノ都城ニ入り、珍寶ヲ得テ還ル、○天皇疾アリ、後事ヲ以テ、皇太子ニ屬シテ曰ク、新羅



佛像ヲ難波堀江ニ投スル圖

ヲ征シテ、任那ヲ復セヨト遂ニ崩テ、在位三十二年享年未詳ナラス

第三十一代敏達天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、都ヲ譯語田ニ遷スコレテ、辛玉宮トイフ、○天皇葦北國造ノ子日羅久シク百濟ニ在リテ、夷情ヲ知ルヲ以テ、コレヲ召シ還シ、新羅ヲ伐ツノ策ヲ問フ日羅曰ク、夷ヲ服スルノ道國本ヲ培養スルニ在リト、具ニ其ノ策ヲ陳フ天皇、コレヲ嘉ス、○蘇我馬子佛ヲ信ジ、寺塔ヲ建ツ、物部守屋中臣勝海ナルヲ劾奏ス、馬子病ノ爲ニ、佛ニ禱ランコトヲ請

フ、天皇乃勅レテ曰ク、汝獨コレヲ爲ヨ、他人ニ惑ハスコトナカレト、○天皇在位、十四年一レテ崩ス、年四十八

第三十二代用明天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、磐余ニ都ス、コレヲ、池邊雙槻宮トイフ、○敏達天皇ノ崩ズルニ及ビテ、穴穗部皇子陰ニ覬覦ヲ懷キ又殞宮ニ入りテ、其ノ皇后ヲ烝センコトヲ謀ルニ輪逆コレヲ拒ム皇子怒リテ物部守屋ヲシテ逆ヲ殺サシム、○天皇病アリ、群臣ヲシテ佛ニ禱ラ、コトヲ議セシム、物部守屋中臣勝海コレヲ諫

ム蘇我馬子詔旨ヲ賛成ス穴穗部皇子僧ニ引キテ宮ニ入ル守屋怒リテ、コレヲ呪ス、是ヨリ馬子ト、守屋勝海ト、怨隙滋甚シ、馬子迹見、赤檮ヲシテ勝海ヲ殺サシム、天皇在位、一年ニシテ崩ス、事年未詳

第三十三代崇峻天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、用明天皇崩シテ嗣無シ、物部守屋諸皇子ヲ去リテ穴穗部皇子ヲ立テントス蘇我馬子其ノ謀ヲ聞キテ敏達天皇ノ皇后炊屋姬尊即推古天皇ナリノ旨ヲ奉シ入ヲシニ、穴穗部皇子及宅部皇子ヲ殺サシム

又廐戸皇子ト謀リ、守屋ヲ攻メテ、其ノ族ヲ殲ス
是ニ於テ、炊屋姫、尊群臣ト策ヲ定メラ、天皇ヲレ
テ即位セシム、倉梯宮ニ治ス、○蘇我馬子專横日
ニ甚シ、天皇コレヲ疾ム、馬子懼テ、東漢駒ヲシ
テ、天皇ヲ弑セシム、駒コレヨリ、馬子ノ寵ヲ時ク
其ノ女ヲ姦ス、馬子怒リ、駒ヲ殺シテ曰ク、吾君ヲ
弑セシ賊ヲ誅スト、○天皇在位五年、年七十三、
第三十四代推古天皇ハ、用明天皇ノ同母妹ナリ
敏達天皇ノ五年ニ、皇太后ナリ、是ニ至リテ、豐浦
宮ニ即位ス、後小墾田宮ニ遷ル、○廐戸皇子ヲ立

テ、太子トシ、政ヲ攝セシム、太子及蘇我馬子ニ
詔レテ、佛法ヲ興隆セシム、是ニ於テ群臣競ヒテ
佛寺ヲ造ル、○百濟ヨリ曆天、大地理、道甲、方術等
ノ書ヲ獻フ、太子憲法十七條ヲ撰ス、詔シテ、守位
十二階ヲ定メ、又天皇記、國記、及諸臣、庶人等ノ本
記ヲ錄セシム、小野妹子ハ、隋ニ遣ハス、支那ト通
ズルコト此ニ始マル、池溝コ、倭山、背河内ニ作リ、
園毎ニ屯倉ヲ置ク、在位三十六年ニシテ崩ル、年
七十五、遺詔シテ、厚ク葬ルコト勿カラシム、
第三十五代舒明天皇ハ、敏達天皇ノ孫ニシテ、押

坂彦人、大兄皇子ノ子ナ
 リ都ヲ飛鳥岡ニ遷スコ
 レヲ岡本宮トイフ、○蝦
 夷反ス、上毛野形名ヲレ
 テ討チテコレヲ平ケル
 ニ、其ノ妻夫ヲ助ケテ功
 フリ、○姑メテ斗升斤量
 ヲ定ム、○天皇在位、十三
 年ニシテ崩ス、享年未詳ナラバ
 第三十六代皇極天皇ハ、



敏達天皇ノ曾孫ニシテ、茅渟王ノ女ナリ、舒明天
 皇ノ二年ニ、皇后トナリ、是ニ至リテ、即位ス、飛鳥
 板蓋宮ニ治ス、○蘇我蝦夷ノ子、入鹿政ヲ擅ニシ、
 父子相與ニ、不軌ヲ謀ル、中大兄皇子、天智天皇中臣鎌
 足等ト謀リテ、父子ヲ誅ス、蝦夷誅セラル、ニ臨
 ミテ、悉、天皇記、國記、及、珍寶ヲ焚ク、船、惠尺、國記ヲ
 火中ヨリ取リテ、中大兄皇子奉ル、○天皇位ヲ輕
 皇子、孝德天皇ニ讓ル、在位三年、
 第三十七代、孝德天皇ハ、皇極天皇ノ同母弟ナリ、
 中大兄皇子ヲ立テ、皇太子トス、都ヲ難波長柄豐

時ニ遷ス、此ノ時始メテ、年號ヲ建テ、大化トイ
ス、神武天皇卽位紀元ノ年ノ距ルコト一千三百
五年ナリ、○鐘匱ヲ朝ニ設ケテ、冤枉ヲ訴ヘシメ、
畿内ヲ定メ、關驛ヲ建テ、國造ノ罷メ、國司郡司ニ
置キ、國界ヲ分チ、田制ヲ定メ、租庸調ノ法ヲ制シ、
又、冠十三階ヲ定メ、更ニ十九階ヲ制シ、八省百官
ヲ置ク、國家ノ制度、大ニ備ハル、在位十年ニシテ
崩ス、年五十九、

第三十八代齊明天皇ハ、皇極天皇、重陳ノ號ナリ、
飛鳥板蓋宮ニ卽位シテ、明年、飛鳥岡本宮ニ遷ル、

コレヲ後飛鳥岡本宮ト云フ、○阿倍比羅夫舟師
ヲ率井テ蝦夷ヲ征レ、遂ニ肅慎ヲ伐ク、○有間皇
子、反ヲ謀ル事發シニ誅ト伏ス、○新羅兵ヲ唐國
ニ借リテ、百濟ヲ伐ツ、天皇コレヲ救ハシコトヲ
欲シテ、親舟師ヲ帥井、西州ニ幸レ、遂ニ筑紫朝倉
宮ニ崩ス、在位七年、前後合セテ、十年ナリ、年六十
八、

第三十九代、天智天皇ハ、舒明天皇ノ子ナリ、都ヲ
近江國ニ遷ス、コレヲ大津宮トイフ、○天皇、至孝
ニシテ、先帝ヲ殯スルコト、六年、明年ニ至リテ、始

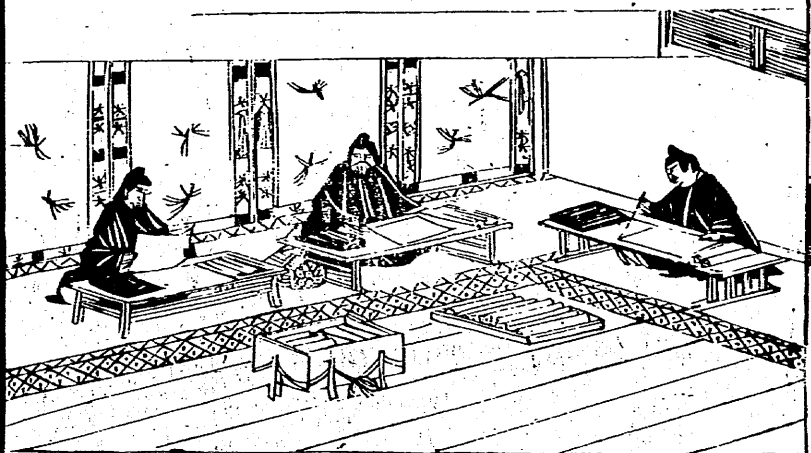
メテ即位ノ禮ヲ行ス、○敕シテ冠位二十六階ヲ
制ス、○中臣鎌足ヲ大臣ニ任シ、大織冠ニ叙シ、藤
原氏ヲ賜フ、大友皇子弘文天皇ヲ太政大臣トス、太政
大臣此ニ始マル侍臣ニ詔シテ律令ヲ撰ビ、戶籍
ノ法ヲ定メシム、又大堤ヲ筑紫ニ築キテ水ヲ貯
ス、名ケテ水城ト云フ、始メテ御製ノ漏刻ヲ置キ、
鐘鼓ヲ擊チテ以テ時ヲ報ゼシム、○天皇病アリ、
皇太弟大海人皇子天武天皇ヲ召シテ、屬スルニ後事
ヲ以テス、皇太弟疾ト稱シ、固辭シテ僧トナリ吉
野ニ入ル、是ニ於テ大友皇子ヲ皇太子トス、天皇

文學ヲ好ミ、治體ヲ明ニシ、學校ヲ興ヒ、典禮ヲ制
ス、其文物憲章粲然トシテ觀ルベシ、在位十年ニ
シテ崩ズ、年四十六、

第四十代弘文天皇ハ、天智天皇ノ子ナリ、大津宮
ニ即位ス、尋テ大海人皇子ヲ舉ゲ、天皇コレヲ
征シテ克ク、近江國長等ノ山前ニ崩ズ、コレヲ
壬申ノ亂トイフ、在位七月、年二十五、明治三年、始
メテ謚ヲ上ル、

第四十一代天武天皇ハ、天智天皇ノ同母弟ナリ、
飛鳥淨見原宮ニ即位ス、詔シテ律令ヲ定メ、帝紀

律令ヲ定メテ
紀ノ
撰ノ
圖



及上古ノ事ヲ撰録セシメ、又親王ヨリ庶人ニ至ルマテノ服色ヲ分テ天下諸氏ノ姓ヲ定メテ、八種トシ、爵位ノ制ヲ改メテ、諸王ニ十二階、諸臣ニ四十八階トス。○諸國ノ境域ヲ定ム。○天皇在位十五年ニシテ崩ス、享年未詳

第四十二代持統天皇ハ天智天皇ノ女ニシテ、天武天皇ノ皇后ナリ、天武天皇崩ズルニ及ビテ朝ニ臨ム政ヲ聽久後三年皇太子草壁薨ズ因リテ即位シ、藤原宮ニ治ス。○大津皇子反ヲ謀リ事發シテ死ヲ賜フ。○詔シテ服色ヲ定メテ七種トシ、朝堂座上ノ禮ヲ制ス、始メテ元嘉曆ト、儀鳳曆トヲ行フ、又陣法博士ヲ諸國ニ遣ハレテ武ヲ講セシム。○天皇位ヲ珂瑠皇子文武天皇ニ讓ル、在位十年、大寶二年十二月崩ズ、年五十八

第四十三代文武天皇ハ岡宮天皇天武帝ノ太子草壁ノ皇子

子ナリ、藤原宮ニ即位ス、持統天皇ヲ尊ビテ、太上天皇ト稱ス、太上天皇ノ號此ニ始マル。○詔レテ、官各位號、服色ヲ改メ、位記ヲ用井テ、位冠ヲ賜ノコトヲ停ム、律令ヲ撰定シ、新律度量ヲ頒ツ、又旧祖ノ法ヲ定ム、在位、十一年ニシテ崩ス、年二十五。第四十四代、元明天皇ハ、天智天皇ノ女ニシテ、文武天皇ノ母ナリ、都ヲ平城ニ遷ス、以下光仁天皇ニ至ルマテ此都スル。○陸奥越後ノ蝦夷反ス、伐ナテコレヲ平グ。○始メテ都亭驛ヲ置キ、又批文師ヲ、諸國ニ遣ハシテ、錦綾ヲ織ルコトヲ教ヘシム、○太安麻呂

呂、古事記ヲ上ツル、又諸國ニ詔レテ、風土記ヲ奉ラシメ、郡郷ノ名務メテ佳字ヲ用井シム、○使ヨ七道ニ遣ハシテ、囚徒ヲ録ヤシム、○陸奥出羽ノ蝦夷南島ノ奄美夜久、度感信覺、球美等ノ人來朝シテ、方物ヲ獻ズ、○天皇、位ヲ氷高内親王元正天皇ニ禪ル、在位七年、養老五年十二月崩ズ、年六十一。第四十五代、元正天皇ハ、文武天皇ノ姪ナリ、○諸國ニ令シテ、調庸ノ斤兩長短ヲ定メ、諸帳簿ノ式ヲ頒ツ、又藤原不比等等ニ敕レテ、律令ヲ修メシメ、國內ノ百姓ヲシテ、社ヲ右ニセシム、○始メテ、

諸國ニ按察使ヲ置キ、又渡島、津輕、津司等ヲ、靺鞨國ニ遣ハレテ、其ノ風俗ヲ觀ヤシム、○舍人親王、日本紀三十卷、系圖一卷ヲ上クル、○蝦夷反ス、丹治比縣守等ヲレテ、討ナテコレヲ平ゲシム、○天皇位ヲ首皇子聖武天皇ニ禪ル、在位九年、天平二十年四月崩ズ、年六十九、

第四十六代聖武天皇ハ、文武天皇ノ子ナリ、○蝦夷反ス、藤原宇合等ヲレテ、討チテコレヲ平ゲシム、○始メテ畿内總管諸道鎮撫使ヲ置キ、尋テ節度使ヲ置ク、○新羅來朝ハ期三年ニ一タビスル

コトヲ許ス、○藤原廣嗣反ス、大野東入ヲレテ討チテコレヲ平ケシム、○天皇佛法ヲ尊崇レ、篤ク僧侶ヲ敬ス、金銅盧舍那佛ノ大像ヲ造ル、出家シテ、自ラ勝滿ト稱ス、在位二十五年ニレテ位ヲ阿倍皇女孝謙天皇ニ禪リ、天平勝寶八歲五月崩ズ、年五十六、

第四十七代孝謙天皇ハ、聖武天皇ノ女ナリ、始メテ、紫微内相ヲ置キ、藤原仲麻呂ヲ以テ、コレニ任シ、内外諸兵事ヲ掌ラシム、橘奈良麻呂其ノ權ヲ專ニスルヲ惡ヒ、コレヲ除カンコトヲ欲シ、遂ニ

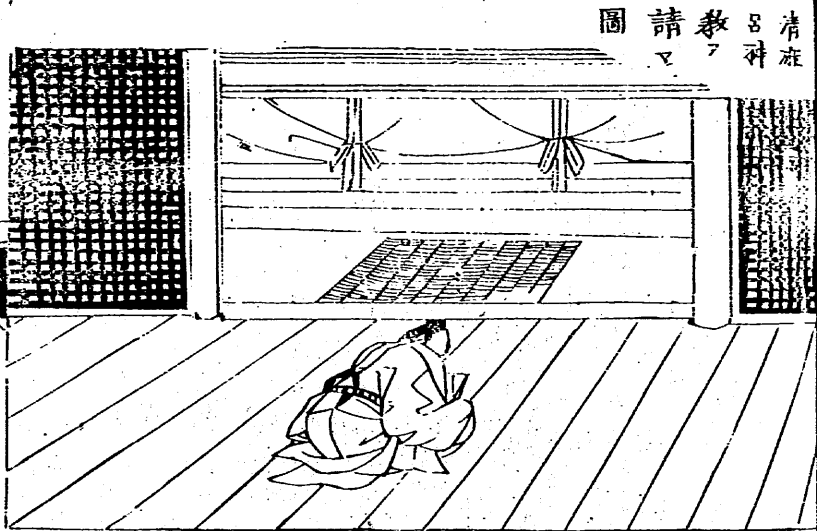
廢立ヲ謀ル事泄レテ獄ニ下リ、黨與罪ヲ得ル者
衆シ、時ニ藤原豐成右大臣タリ、寛厚ニシテ、時望
ヲ得、仲麻呂コレヲ忌ミ、遂ニ豐成ヲ誣ヒテ、其ノ
黨ナリトス、因リテ、太宰員外帥ニ貶ス、是ヨリ、仲
麻呂益横肆ナリ、○天皇在位十年ニシテ、位ヲ大
炊皇子淳仁ニ讓ル、

第四十八代淳仁天皇ハ、崇道盡敬皇帝天武帝ノ子舍人ノ親王
ノ子ナリ、○仲麻呂等ニ詔シテ、官制ヲ改メシ
メ、又仲麻呂ニ名ヲ押勝ト賜ヒ、姓ニ惠美ノ三字
ヲ加ス、○國司ノ交替、六年ヲ以テ限トシ、三年毎

ニ巡察使ヲ遣ハレテ、治績ヲ檢校セシム、○初上
皇孝謙、押勝ヲ寵ス、既ニシテ、僧道鏡ヲ近ツク、天
皇屢以テ言ヲナス、上皇擇バズ、五位以上ヲ朝ニ
召シ、親國家ノ大事ヲ決ス、押勝道鏡ノ爲ニ其寵
ヲ奪ハレ、レコトヲ懼レ、奏シテ、四畿内、伊勢、美濃、
越前、近江、丹波、播磨ノ國人、兵事都督ヲ請ヒ、遂ニ
近江ニ據リテ反シ、鹽燒王ヲ立テ、帝ト稱ス、藤
原茂下麻呂ヲシテ、討チテコレヲ誅セシム、上皇
詔シテ、道鏡ヲ、大臣禪師トシ、封戶、職分田皆大臣
ニ準ス、天皇ヲ廢シテ、淡路公トシ、其ノ國ニ遷ス、

世ニ淡路廢帝ト稱ス○天皇、在位六年、天平神護元年十月淡路ニ崩ズ、年三十三、後明治三年謚ヲ上ル、

第四十九代稱德天皇ハ、孝謙天皇重祚ノ號ナリ、天皇既ニ佛ニ歸シ、是ニ至リテ、復萬機ニ臨メリ、○和氣王反ヲ謀リ事發シテ誅ニ伏ス、詔シテ道鏡ヲ以テ太政大臣禪師トシ、文武百官ヲシテ拜賀セシム、尋テ法王ノ位ヲ授ケ、輿服飲食皆供御一擬セシメ、大小ノ政其決ヲ取ラサルハ無シ、會太宰ノ主神習宜阿曾麻呂宇佐八幡大神ノ託宜



清麻呂神教請圖

ト矯リ道鏡ヲシテ、位ニ即カシメバ、天下泰平ナラント奏ス、是ニ於テ、天皇和氣清麻呂宇佐ニ遣ハレテ、神教ヲ請ハシメ、發スルニ臨ミテ、道鏡又示スニ、恩威ヲ以テレ其ノ非望ヲ遂ケンコトヲ欲ス、清麻呂歸リテ、神語ヲ奏レテ曰ク、我が國

開闢以來君臣ノ分定レリ、未_レ臣ヲ以テ君トセシ
コトアラズ、天_ノ日嗣ハ、必皇緒ヲ立テ、早ク無道
ノ人ヲ除ケト、道鏡怒リテ、清麻呂ヲ大隈ニ流シ
入_ラシテ、コレヲ途ニ殺サレハレトシテ、能ハス
○天皇在位五年、前後合セテ、十五年ニシテ崩ズ
年五十三、

第五十代光仁天皇ハ、天智天皇ノ孫ニシテ、春日
宮_{施基}天皇_{親王}ノ子ナリ、天皇、天平勝寶以來國ニ讎
貳無クシテ、人々相疑ヒ、横禍ニ罹ル者、多キノ慮
リ、酒ヲ縱ニシテ、自晦ス、稱徳天皇崩ズルニ及ヒ

テ、遺詔ヲ奉_レ即位シ、道鏡ヲ、造下野藥師寺別當
ニ貶シ、清麻呂ノ召還シテ、本位ニ復ス、○詔シテ、
内外ノ官員ヲ省ク、又、三關邊要ノ外ハ、悉諸國ノ
冗兵ヲ除キコレヲシテ、農耕ニ就カレム、三關ト
ハ、伊勢ノ鈴鹿、美濃ノ不破、越前ノ愛發ナリ、○天
皇在位十二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、尋テ崩
ズ年七十三、

第五十一代桓武天皇ハ、光仁天皇ノ子ナリ、都ヲ
山城ニ遷_レテ、コレヲ平安城トイフ、ユレヨリ以
後歷代ノ皇居タリ、○淡海三船ヲシテ、神武天皇

ニリ以來列朝ノ謚號ヲ定メシム、○詔レテ三關
 ヲ廢シ公私ノ往來ニ便フ、是ノ時蝦夷數反ス大
 伴弟麻呂坂上田村麻呂等ヲシテ討ナテコレヲ
 平ケレム、○菅野真道等續日本紀ヲ上ル、天皇在
 位二十年ニシテ崩ズ、年七十、

第五十二代平城天皇ハ桓武天皇ノ子ナリ、○皇
 弟伊豫親王反ヲ謀ルト告ル者アリ、因リテ死ヲ
 賜シ其ノ黨ヲ流ニ處ス、○天皇在位四年ニレテ
 位ヲ皇太弟ニ讓ル、天長元年七月崩ズ、年五十一、
 第五十三代嵯峨天皇ハ平城天皇ノ同母弟ナリ、

○尚侍藥子平城上皇ニ復辟ヲ勸メ旨ヲ矯メテ
 都ヲ平城ニ遷サントシ、人心騷然タリ、天皇詔レ
 テ藥子ノ罪ヲ暴白シ、其ノ兄藤原仲成ヲ收メ上
 皇怒リテ兵ヲ率テ東國ニ入ラントス、天皇乃チ仲
 成ヲ誅シ、兵ヲ遣ハシテ上皇ヲ路ニ邀キラシム、
 上皇進ムコトヲ得ズ、因リテ宮ニ還リ、剃髮シ、藥
 子自盡シテ事平ゲリ、○天皇博學ニシテ文ヲ能
 クシ、書ヲ巧ニス、在位十四年ニシテ位ヲ皇太弟
 ニ讓ル、承和九年七月崩ズ、年五十五、
 第五十四代淳和天皇ハ嵯峨天皇ノ弟ナリ、○清

原夏野等ニ敕シテ、令義解ヲ撰バシム。○夏野奏シテ、親王ヲ諸國、守トシ、庶務ヲ習メシメンコトヲ請フ。是ニ於テ、上總常陸、上野ヲ以テ、親王ノ任國トス。○天皇、在位十年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。承和七年五月崩ス、年五十五。

第五十五代、仁明天皇ハ、嵯峨天皇ノ子ナリ。○伴健岑、橘逸勢等、陰ニ太子恒貞ヲ奉シテ、天皇ヲ廢セシコトヲ謀リ、事發ル、因ツテ太子ヲ廢シ、健岑逸勢ヲ流ニ處ス。○日本後紀成ル。○天皇、在位十七年ニシテ崩ズ、年四十一。

第五十六代、文德天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ。天皇資性明察、心ヲ政事ニ留メテ、能ク人ノ姦ヲ知ル。但多病ナルヲ以テ、事ヲ視ルコトアダハズ。在位僅ニ八年ニシテ崩ズ、時人コレヲ惜ム。年三十二。第五十七代、清和天皇ハ、文德天皇ノ子ナリ。天皇九歳ニシテ即位ス。政ヲ藤原良房ニ攝セシム。其ノ外祖タルヲ以テナリ。既ニシテ、良房薨ス。天皇政ヲ親シ、日萬機ヲ紫宸殿ニ視ル。是ヲ以テ、内外肅然トシテ、國家寧靜ニリ。○貞觀格式及續日本後紀成ル。○天皇、在位十八年ニシテ、位ヲ皇太子

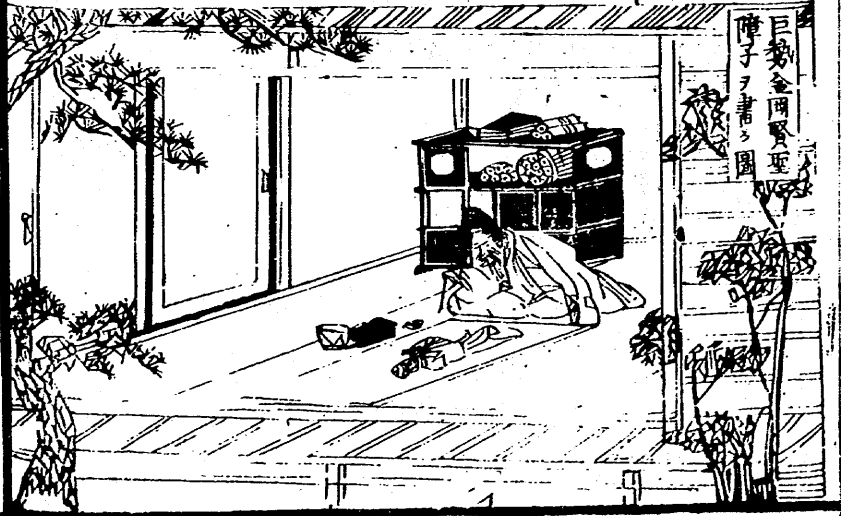
二讓ル、元慶四年十二月崩ズ、年三十一
第五十八代陽成天皇ハ、清和天皇ノ子ナリ、天皇
十歳ニシテ即位ス、藤原基經政ヲ奏ス、良房ノ例
ニ沿カヘルナリ、○出羽ノ夷俘反ス、藤原保則小
野春風等ヲシテ討ナテコレヲ平ケシム、○文德
天皇實錄成ル、○天皇遊嬉度無ク、屢不幸ヲ被ス
是ニ於テ、基經公卿ト謀リ、天皇ニ請ヒテ、位ヲ讓
ラシム、是ノ時年十七在位八年ナリ、天曆三年九
月崩ズ、年八十二

第五十九代光孝天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ、○天

皇謙恭、鹿仁ナリ故ニ、基經群臣ト迎ヘテコレヲ
立ツ、○公卿奏シテ、五位以上ノ封祿ヲ減センコ
トヲ請フ、許サズ、救シテ、御服ノ絹帨ノ數ヲ減ス
○天皇在位三年ニシテ崩ス、年五十八
第六十代宇多天皇ハ、光孝天皇ノ子ナリ、○詔シ
テ、萬機巨細ト無ク、一切基經ニ關白セシム、關白
此ニ始マル、尋テ又ニ宮ニ準ス、○天皇、畫ヲ畫エ
ヲシテ、設周以來、名臣ノ像ヲ紫宸殿ノ障子ニ
圖セシム、コレヲ賢聖障子トイフ、在位十年ニシ
テ、位ヲ皇太子ニ讓ル、承平元年七月崩ズ、年六十

五

第六十一代醍醐天皇ハ
 宇多天皇ノ子ナリ、○藤
 原時平、菅原道真ト、共ニ
 政ヲ執ル、道真庶務ヲ綜
 理レ、裁決流ル、ガ如レ
 天下望ヲ屬ス、時平等コ
 レヲ嫉ミテ誣ナルニ異
 圖アルヲ以テス、天皇其
 ノ讒ヲ信シテ道真ヲ大



巨勢金剛殿
 障子ヲ書ク圖

宰權帥ニ左遷ス天下コレヲ冤トス、○天皇心ヲ
 政事ニ留メ温顔ヲ以テ群臣ニ對シ、其ノ言ヲ盡
 サレム、ス嘗テ寒夜ニ方リ、御衣ヲ脱レテ曰ク凍
 餘ノ民以テ想ノメキナリト、故ニ後世稱シテ延
 喜ノ政トイフ延喜ハ當時ノ年號ナリ、此ノ世ニ
 延喜式及三代實錄成ル、○天皇在位三十三年、位
 ヲ皇太子ニ讓リ尋テ崩ズ年四十六

第六十二代朱雀天皇ハ、醍醐天皇ノ子ナリ、○平、
 將門伯父、常陸、大掾國香ス、常陸ニ殺ス武藏權守
 興世王、凶險コレテ亂ヲ好ム、將門延キニ謀主トシ

下總ニ反シ坂東諸國ヲ陷シ都ヲ猿島ニ建テ偽百官ヲ備ヘ自新皇ト稱ス是ノ時ニ當リテ藤原續友既ニ難ヲ伊豫ニ起シ東西相應シ天下騷然タリ因リテ藤原忠文ヲ征東大將軍トス未ダ至ラザルニ平貞盛藤原秀郷等將門ヲ討ス尋テ橘遠保續友ヲ伊豫ニ誅シ首ヲ京師ニ傳ヘ賊悉ク平クコレヲ承平天慶ノ亂トイフ承平天慶モ亦當時ノ年號ナリ○天皇在位十六年ニレテ位ヲ皇太子ニ讓ハ天曆六年八月崩ス年三十

第六十三代村上天皇ハ朱雀天皇ノ同母弟ナリ

○天德四年九月禁中火ク累世ノ寶器文籍多ク焚テタリ獨神鏡ノミ灰燼ノ中ニ在リテ形質損ズ○天皇嘗テ一老吏ニ問ヒテ曰ク朕カ治延喜ノ朝ト得失何如對ヘテ曰ク老吏何ヲカ知ラシ准主殿寮進ル所ノ松明舊ニ比スレハ多クレテ率分堂ニ草生スルヲ異ナリトスルノミト天皇大ニ愧ヂテ益政事ヲ勤ム時ニ年號ヲ天曆トイハ故ニ後世治ヲ説ク者必延喜天曆ヲ稱ス○天皇在位二十一年ニレテ崩ス年四十二

第六十四代冷泉天皇ハ村上天皇ノ子ナリ○攝

繁延等爲平親王ノ奉シテ、亂ヲ作サンコトヲ謀ル、事發レテ流ニ處ス。○天皇儲貳タリシトキヨリ、心疾ヲ患フ、位ニ即クニ及ビテ、増劇シ、是ヲ以テ政、外戚藤原氏ニ歸ス。朝綱ノ振ハガルコト寔ニ此ニ始マル。○天皇在位二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。寬弘八年十月崩ズ年六十二。

第六十五代 圓融天皇ハ、冷泉天皇ノ同母弟ナリ。在位十五年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。正曆二年二月崩ズ年三十三。

皇即位ノ初、心ヲ政事ニ委シ、紀綱肅然タリ。女御忝子卒スルニ及ビテ、悲哀シテ已マズ。遂ニ藤原道兼ニ訪ハレテ、潛ニ官ヲ出テ、華山ノ元慶寺ニ入り、落髮シテ僧トナル。○天皇在位僅ニ二年。寬弘五年二月崩ズ年四十一。

第六十七代 一條天皇ハ、圓融天皇ノ子ナリ。○關白藤原道長、權ヲ專ニス。天皇心コレヲ疾ムト雖、遂ニ制スルコト能ハズ。○天皇在位二十五年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。寬弘八年六月崩ズ年三十二。

第六十八代三條天皇ハ冷泉天皇ノ子ナリ、○藤原道長益、專恣ナリ、○天皇、在位五年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、寛仁元年五月崩ズ、年四十二、

第六十九代後一條天皇ハ一條天皇ノ子ナリ、○

三條天皇、敕シテ子敷明親王ヲ立テ、後一條天皇

ノ儲貳トス、其ノ統ヲ存センコトヲ欲スレバナ

リ、既ニシテ、東宮位ヲ辭ス、道長奏レテ、小一條院

ト號シ上皇ニ准シ皇弟敦良親王後朱雀天皇ヲ立テ、

皇太弟トス、道長朝ニ立ツコト、四十餘年一家ニ

シテ三右ヲ出ダス、天皇皇太弟、皆其ノ女ヲ生ム

所ナリ、○天皇、在位、二十

年ニシテ崩ズ、年二十九、

清原光頼等式則ト源賴義ニ來リ偶スル圖

第七十代、後朱雀天皇ハ

後一條天皇ノ同母弟ナ

リ、○皇、居火ク神鏡火中

ニ在リテ、毀損セズ、○天

皇在位九年位ヲ皇太子

ニ讓ル、尋テ崩ズ、年三十

七

第七十一代、後冷泉天皇

